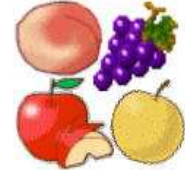




平成24年度 果樹情報 第9号

(平成24年7月20日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (7月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は1半旬が21.6℃で平年より0.2℃低く、2半旬が22.4℃で平年並み、3半旬が24.7℃で平年より1.6℃高い状況でした。この期間の降水量は92.5mmで平年の96%でした。

2 土壌の水分状況 (7月16日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培リンゴ園) は、深さ20cmが2.4、深さ40cmが1.7、深さ60cmが1.9で、深さ20cmは乾燥状態にありますが、40cm以下は適湿条件の範囲です。

3 生育概況 (果樹研究所)

(1) モモ

ア 果実肥大 (7月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が56.3mmで平年比102%、側径が56.2mmで平年比99%と平年並み、「ゆうぞら」は縦径が48.2mmで平年比98%、側径が42.3mmで平年比94%と小さい状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

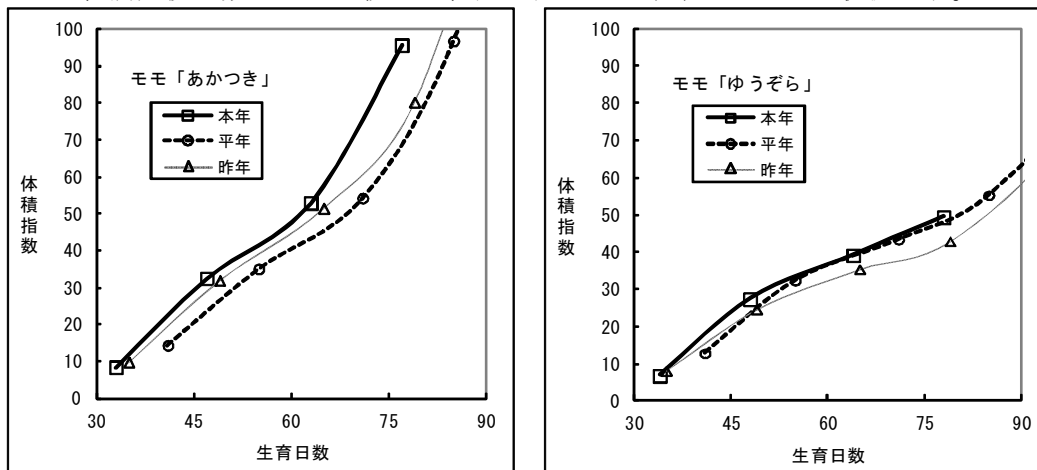


図1 モモの果実肥大 (7月15日現在)

イ 新梢生長 (満開後71日現在)

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が10.2cmで平年比78%と短く、展葉数は13.8枚で平年比90%と少なく、葉色は平年比100%と平年並みで新梢停止は早い状況です。

ウ 核障害の発生 (満開後75日現在)

「あかつき」の核障害は、核頂部の亀裂の発生率が35%で平年 (45%) より多く、縫合面の割裂が40% (平年は26%) と多い状況です。

エ 発育予測 (7月15日現在)

今後の気温が平年並みに推移した場合、「あかつき」の収穫開始日は8月10日で平年より8日程度遅く、収穫盛りは8月14日で同様に8日程度遅れる見込みです。

オ 早生品種の収穫

早生品種「ちよひめ」の収穫始めは7月9日、収穫盛りは7月11日で平年より3日遅い状況でした。果実の大きさは225gで平年より大きく、糖度は10.8で平年よりやや高い状況でした。また、「日川白鳳」の収穫始めは7月17日で平年並みの状況でした。

(2) ナシ

ア 果実肥大（7月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が41.6mmで平年比106%、横径が50.4mmで平年比108%と平年より大きく、「豊水」は縦径が41.6mmで平年比104%、横径が46.0mmで平年比106%と大きい状況です。

また、満開後日数による比較でも、両品種ともに平年より大きい状況です。

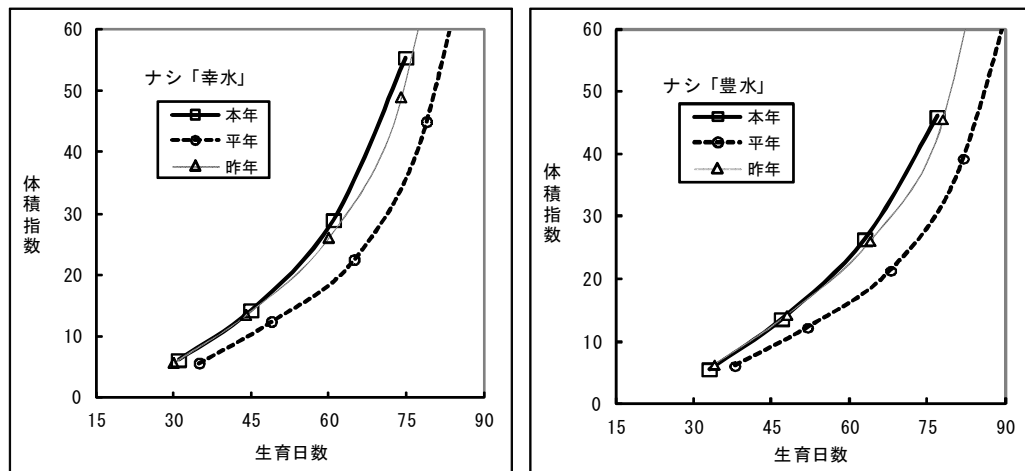


図2 ナシの果実肥大（7月15日現在）

イ 新梢生長（満開後70日現在）

「幸水」の新梢生長は、新梢長（予備枝）が123.4cmで平年比113%と平年より長く、、葉枚数が31.3枚で平年比105%と平年より多い状況です。「豊水」は新梢長（予備枝）が118.2cmで平年比115%と平年より長く、葉枚数が29.3枚で平年比103%とほぼ平年並みの状況です。

ウ 裂果発生

「幸水」における裂果の初発日は、平年で7月14日（平年は1990～2010年）であるが、7月17日（満開後77日）現在、まだ裂果の発生は見られていません。

(3) リンゴ

ア 果実肥大（7月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が59.9mmで平年比105%、横径が66.6mmで平年比102%と平年よりやや大きく、「ふじ」は縦径が53.6mmで平年比104%、横径が57.3mmで平年比103%と平年よりやや大きい状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

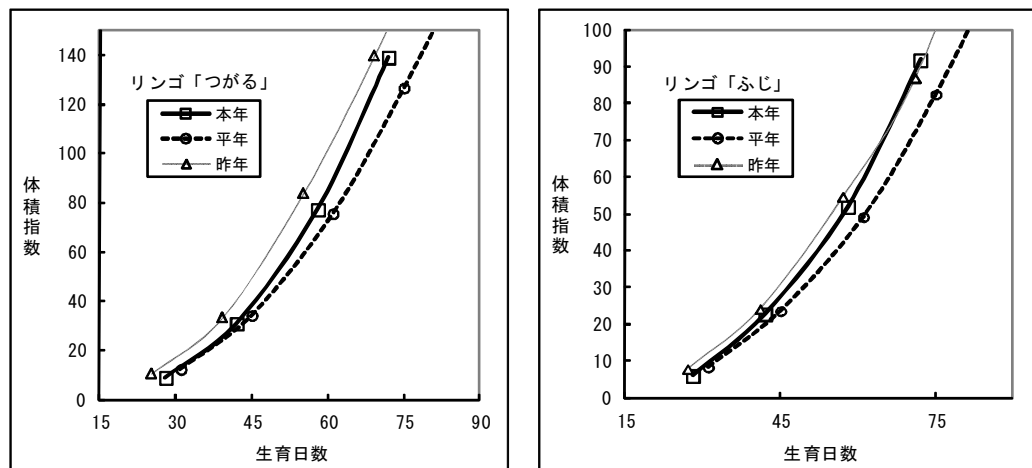


図3 リンゴの果実肥大（7月15日現在）

イ 新梢生長

「ふじ」の新梢伸長は、満開後50日までに停止し、平年並みの状況でした。

4 栽培管理上の留意点

(1) 共通

今後、降水量が少なく土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を実施してください。

ア かん水

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は晴天日で5～6mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度ですので、1回のかん水は25～30mm(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。また、保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを実施しましょう。草刈りを行い、刈られた草でマルチをすると、地表面からの蒸発散量は、草刈りを実施しない場合に比較して約半分に抑えられるとされます。

(2) モ モ

ア 早生品種の収穫

核割れ等により胚に障害を受けている果実が多いため、果肉の成熟が早まりやすく、軟化が早い傾向にあるので、収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 中生品種の収穫前管理と収穫

「あかつき」では、満開後65日以降は核障害の発生率が高く胚障害が目立っていますので、このため、修正摘果は数回に分け丁寧に実施しましょう。特に、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮および果肉が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いのでこれらの果実に注意して摘果を実施しましょう。なお、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理は、遅れないよう計画的に実施しましょう。

(3) リンゴ

ア 修正摘果

現在、果実肥大や果形の差、障害果等を判別しやすい時期なので、小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施しましょう。特に結実数の多い園地では、修正摘果を実施して、適正着果に努めましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂しますので、樹冠内部の日当たり改善、折れ防止のため支柱立て及び枝吊りを実施しましょう。

(4) ナ シ

ア 新梢誘引

腋花芽着生を目的とした誘引の適期となっていますので、作業を進めましょう。

また、不定芽新梢を含めた新梢誘引は、受光条件の改善や薬剤透過性の改善による防除効果の向上、冬季せん定後の結果枝の棚付け作業の軽労・省力化にも有効ですので、作業を徹底しましょう。特に「豊水」の新梢は湾曲したり下垂しやすいことから、乱雑な発生状況となりやすいので、新梢誘引により発生方向を修正し、整然とした配置に整えましょう。

イ 修正摘果

「幸水」では、裂果発生時期(満開後80～90日頃)の摘果は、他の果実の裂果を誘発するので、修正摘果は、裂果の収束後に実施しましょう。修正摘果では、肥大不良果、果形不良果、障害果等を丁寧に摘果しましょう。

(5) ブドウ

ア 着果管理

ブドウの着色始めは、果房中のいくつかの果粒が飛び飛びに濃く着色しはじめるのが望ましい状態です。全体的にぼんやりと着色が進行するような場合は、着果過多が原因と考えられるので、早急に着房数の見直しを行いましょう。

イ 新梢管理

新梢の遅伸びは、果実品質の低下や新梢の登熟不良の原因となります。

7月下旬～8月上旬頃に伸長が停止していない新梢には、摘心を実施しましょう。方法は、先端の生長点を軽く摘む程度に実施します。また、伸長が停止していない副梢は、2～3葉を残して摘心します。まもなく伸長が停止する副梢は、棚面が混み合わなければそのまま放置してもかまいません。

摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に新梢を間引きして、棚面の明るさを均一に確保しましょう。なお、間引きは必要最小限にとどめてください。

ウ 水分管理

「巨峰」等の主要品種は7月下旬頃にベレーゾン期を迎えます。ベレーゾン期は1日当たりの水分消費量が多くなるため、根の活性を保つとともに、土壤水分を確保しましょう。

土壤が過湿条件となり根の活力が低下すると、晴天高温日の葉焼けや縮果症の発生につながりますので、降雨が多い場合は明きょ等による排水対策等を行いましょう。また、気温が35℃を越えるような高温時には、枝葉や地表面からの蒸散量が多くなるため、適時かん水を実施しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ斑点落葉病、褐斑病

斑点落葉病は、高温多雨条件で急増することから注意が必要です。薬剤防除は10日間隔で実施しましょう。

また、褐斑病の発生が認められる園では、二次感染の防止のため、7月下旬の防除を徹底しましょう。

イ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

現在、中～晩生種の灰星病およびホモプシス腐敗病の重点防除時期となっていますので、各品種の収穫期に合わせて薬剤を選択し、防除を徹底しましょう。

ウ モモせん孔細菌病

晩生種で本病の発生が多い場合、7月20日頃または7月30日頃に防除を徹底しましょう。なお、薬剤の収穫前使用日数には注意しましょう。

エ ナシ黒星病、輪紋病

今後も果実での発病が懸念されるため、注意が必要です。発生が多い園では、7月下旬の防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代幼虫の防除適期は、7月6半旬～8月1半旬頃と推定されます。本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などが影響していると考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

イ モモノゴマダラノメイガ

第1世代成虫は7月5半旬頃から発生すると推察されるため、被害の発生が予想されるモモ園では、中晩生種に対して7月下旬～8月中旬に防除を行いましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

第3世代の防除適期は8月1～2半旬頃と推定されます。本種は第3世代からナシ果実への寄生が増加するため、例年ナシでの果実被害が多い地域では、近隣モモ園の芯折れに注意するとともに、第3世代幼虫以降の防除を徹底しましょう。

エ リンゴコカクモンハマキ

第2世代幼虫の防除適期は平年並の7月5半旬頃と予想されます。

オ コガネムシ類

例年、ドウガネブイブイの羽化盛期は7月中下旬頃となります。ドウガネブイブイやヒメコガネ等が活発に飛来する時刻は、日没後から約3時間（18時～21時頃）なので、誘殺灯を使用する場合は、この時間帯に点灯します。なお、モモ園での被害が予想される場合は適宜防除を実施しましょう。

カ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

キ カメムシ類

園地への飛来状況をよく確認し、飛来が多い場合は防除を徹底しましょう。なお、病害虫防除所から病害虫発生予察情報注意報第3号（果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ））が発表（6月29日付け）されていますので、参照してください。

表1 主要鱗翅目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成24年7月17日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	7月31日	8月3日	7月29日	8月3日
平年並み	7月31日	8月4日	7月29日	8月5日
2℃低い	8月3日	8月7日	8月1日	8月9日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日：ナシヒメシンクイ 7月1日、モモハモグリガ 7月12日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。